

令和7年度長野県教育委員会主要施策

「個人と社会のウェルビーイングの実現

～ 一人ひとりの「好き」や「楽しい」、「なぜ」をとことん追求できる「探究県」長野の学び ～」

少子化・人口減少の進行、生成A I 等デジタル技術の急速な進展等により、社会の在り方が急激に変化しており、わずか先の未来も予測できない状況にあります。こうした中、未来を生き、未来を創っていく子どもたちが、時代の変化に即しながら、自ら課題を設定し、仲間と協力してその課題を解決していく「探究の力」はますます重要となっています。

第4次長野県教育振興基本計画に掲げる「探究県」長野の学びを具現化するためには、学校が子どもたちにとって安全安心で自分自身を表現できる場所であるとともに、他者との学びや関わりの中で得た探究心や好奇心の火をずっと灯し続けられる場所であることが必要です。こうしたことを目指して様々な取組を行うとともに、知事部局と連携して、学校以外の学びの場も含め、すべての子どもたちの学びの保障にも取り組んでまいります。

【一人ひとりが主体的に学び他者と協働する学校をつくる】

令和6年度、一人ひとりの「好き」や「楽しい」、「なぜ」をとことん追求するために、子どもが自ら学び方等を選択でき、自己実現できる学校を目指し、学校の仕組み変革等に取り組む12市町村・70校を「ウェルビーイング実践校 TOCO-TON」(以下、「トコトン」という。)に指定しました。令和7年度は、トコトンのある市町村教育委員会に専属の教員を配置するほか、県教育委員会に設置する「学校改革支援センター」により、トコトンを含む改革を目指す全ての学校を伴走支援してまいります。また、教員のウェルビーイング向上のため、教員業務の削減・効率化に取り組めます。例えば、県教育委員会から小中学校等に対して実施している年間約100件の調査・報告のうち、3分の1を廃止又は簡略化していくとともに、例年実施している会議や研修会、学校訪問などについてもゼロベースで見直します。加えて、県立高校における電子採点システムや、県立高校の入学選抜にインターネット出願システムを導入してまいります。さらに、県立高校においても、昨年9月に策定した「県立高校の特色化に関する方針」に基づき、各校の生徒が自ら企画提案する事業を実施するなど、生徒が自分の興味関心や希望に沿って選択できるこれからの時代に合った特色あふれる高校づくりを進めてまいります。

【一人の子どもも取り残されない「多様性を包み込む」学びの環境をつくる】

不登校児童生徒への支援として、トコトンを中心に子どもたちの目線で学校の仕組みを変えていくことで、どの子も毎日行きたくなるような学校づくりを推進します。また、教育支援センターに専任の支援員を配置する市町村への補助などセンターの機能拡充・設置支援を行うことで、教室に入りづらい又は学校へ来ることができていない子どもたちの学びを保障してまいります。さらに、学びの多様化学校と夜間中学校の機能を併せ持つオープンドアスクールの設置に向け、市町村教育委員会へ支援を行い、多様な学びの場づくりを推進します。

【生涯にわたり誰もが学び合える地域の拠点をつくる】

中山間地校へのモデル的配置など県立高校と社会をつなぐ連携コーディネーターの配置を拡充し、学校と地域との一層の連携を図ります。また、コミュニティスクールの活動をさらに充実させるため、アドバイザーの派遣や、教職員及び地域住民向け研修を行います。

【文化芸術・スポーツの身近な環境を整え、共感と交流が生まれる機会をつくる】

部活動の地域クラブ活動への移行に向け、引き続き、指導・協力者と地域クラブ等とのマッチング推進や、新たにICTによる遠隔指導や指導動画コンテンツの作成等を行います。